

■ 注意事項

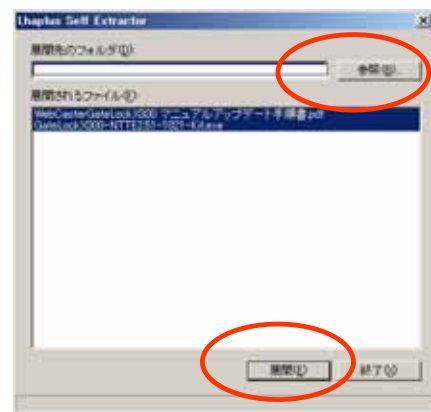
本手順でバージョンアップを実施すると以前に設定したプロバイダ情報などが初期化されるため、再度設定していただく必要があります。あらかじめご契約されているプロバイダのユーザー名、パスワード等の設定情報をご準備願います。

■ 1. バージョンアップの準備

1. ダウンロードしたファイル < WebcasterGLX300_versionup251.exe > をダブルクリックし、任意の場所に解凍し保存します。(図1)

下記2つのファイルが保存されます。

WebCasterGateLockX300 マニュアルアップデート手順書.pdf
GateLockX300-NTTE2.51-1021-Kit.exe



【図1】

■ 2. バージョンアップ操作

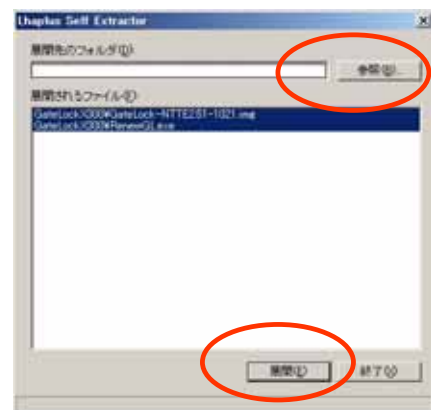
1. ネットワークの設定

ご利用になるパソコンのネットワークの設定を下記のように手動設定します。

・IPアドレス : 192.168.253.100
・サブネットマスク : 255.255.255.0
・デフォルトゲートウェイ : 192.168.253.1
・DNSサーバー : 192.168.253.1

2. バージョンアップツールの準備

1 - 1項で解凍した場所の「 GateLockX300-NTTE2.51-1021-Kit.exe 」を実行(ダブルクリック)すると、解凍先のフォルダを指定する画面(図2)が表示されます。参照ボタンを押し、保存先を選択してください。



【図2】

【展開】ボタンをクリックすると、解凍が開始されます。指定した解凍先フォルダ内に以下のフォルダが作成されます。

(作成されるフォルダ) : GateLockX300

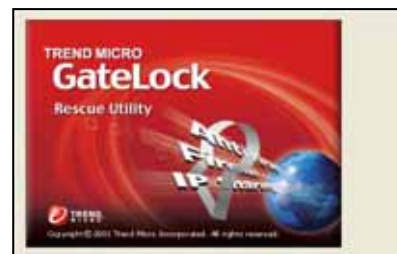
(フォルダ内に作成されるファイル)

- ・RenewGL.exe (バージョンアップツール)
- ・GateLock-NTTE2.51-1021.img (ソフトウェアVer2.51 Build 1021)

3. バージョンアップツール (RenewGL.exe) の実行

解凍先に作成された「RenewGL」を実行(ダブルクリック)すると起動画面(図3)に続いて使用許諾契約書(図4)が表示されます。

「Agree」ボタンをクリックして先へ進めます。



【図3】



【図4】

Web Caster GateLock X300 マニュアルアップデート手順書

現在使用中のWebCasterGateLockX300のソフトウェアバージョンが画面(図5)に表示されます。「Upgrade」ボタンをクリックします。

前述の画面(図5)が表示されずに右の画面(図6)が表示された場合は、ソフトウェアバージョンが確認できなかった場合です。「4 / 4」以降の手順にしたがって進めてください。

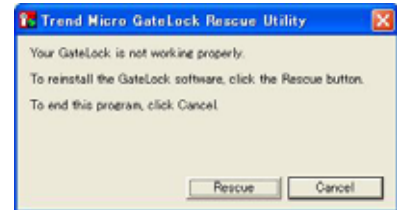
ソフトウェアの格納先を指定する画面(図7)が表示されます。「Browse」ボタンをクリックして、格納先を指定して「GateLock-NTTE2.51-1021.img」を選択して「開く」ボタンをクリックします。

また、「Use GateLock Default settings」をチェックします

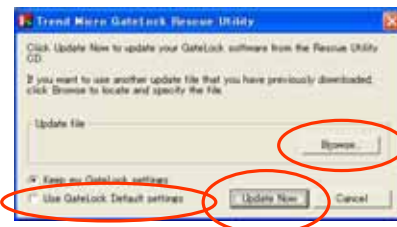
「UpdateNow」ボタンをクリックして、ソフトウェアのバージョンアップを開始します。



【図5】



【図6】



【図7】

バージョンアップツール実行中の状態について
ツール実行中は右図(図8)のように進行状況を示す画面が表示されます。
また、X300本体のLEDが状態にあわせて以下のように推移します。

AV: Anti-Virus AH: Anti-Hacker

AVとAHが共に消灯 (GateLockがファイル転送モードで起動開始)

AVとAHが交互に赤色に点滅 (GateLock側の転送待ち状態)

AVとAHが交互に赤色と緑色に点滅、同時にPC/HUBインジケータが激しく点滅 (アップデートファイルの転送中)

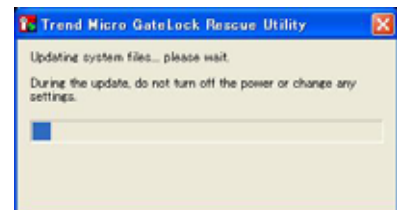
AVとAHが共に点灯 (ファイル転送の完了)

AVとAHが共に消灯 (GateLockがファイル転送モードで再び起動開始)

AVとAHが交互に赤色に点滅 (GateLock側の転送待ち状態)

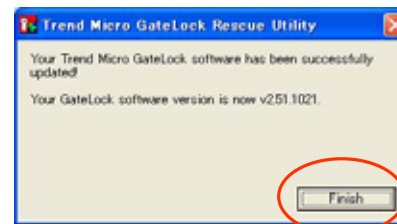
AVとAHが共に消灯 (GateLockが再起動開始)

AVとAHが共に緑色に点灯 (GateLockが起動完了) ただし、設定を変更していると、緑色が点灯しない場合があります。



【図8】

X300の起動完了が確認できると、右の画面(図9)が表示されます。「Finish」をクリックしてツールを終了します。



【図9】

■ 3. X300のセットアップの実施

1. Webブラウザを起動します。下記のようなメッセージが表示されX300の設定画面に移行します。



2. X300のクイックセットアップを実施します。

図10のようにフレックスウェアへの設定をします。“開始”ボタンを押します。

図11のようにプロバイダの接続を設定します。ここでは“PPPoExDSL”にチェックし“次へ”ボタンを押します。

図12のように、プロバイダ接続情報のユーザ名 / パスワードを入力し“次へ”ボタンを押します。

図13のようにプロバイダ接続要件のオプションを必要に応じて入力し“次へ”ボタンを押します。

図14のようにe-mail通知の情報を入力し“次へ”ボタンを押します。

図15のように設定情報確認画面が表示されます。確認後、“次へ”ボタンを押します。設定反映が開始されます。

設定完了後、図16が表示されます。ここではオンライン登録済になっていますが未登録であればオンライン未登録の旨の画面が表示されます。



【図10】



【図11】



【図12】



【図13】



【図14】



【図15】



【図16】

■ ソフトウェアバージョンが確認できなかった場合について

使用許諾画面の次にソフトウェアバージョンが確認できなかった場合、右の画面(図17)が表示されます。

“Rescue”ボタンを押して次に進みます。

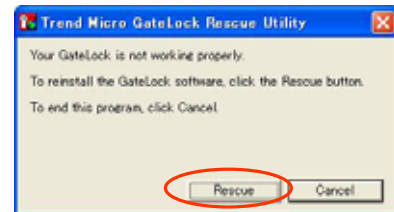
Step1の画面(図18)が表示され、“Next”ボタンを押して次に進みます。

Step2の画面(図19)が表示され、“Next”ボタンを押して次に進みます。

Step3の画面(図20)が表示され、“Next”ボタンを押して次に進みます。

ソフトウェアの格納先を指定する画面(図21)が表示されます。

これ以降の手順は、P2/4のと同様ですので手順に従ってください。



【図17】



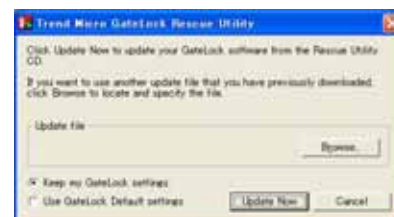
【図18】



【図19】



【図20】



【図21】